

令和二年九月 卒業式式辞

本日、所定の単位を修得し卒業式を迎えられた皆さん、ご卒業おめでとうございます。

残暑の中とところどころに秋の気配を感じ始める今日の良き日に、秋卒業式を迎えることができましたことは本学にとっても大きな慶びであります。

皆さんは本日をもって学士号を授与され、大学卒業者となります。

このなかにはすでに本学の協定校である中国の大学を卒業し、本学の学位を合わせて二重の学位を授与されることになる人もいます。大学の国際化が進んでいるとはいえ、2つの国の大学の学位を授与されることは貴重であり、素晴らしいことだと思います。

日本の卒業生の中には、春卒業ではなく秋卒業であることに不安を感じる人もいるかもしれません。しかし周知の通り、海外の大学では入学、卒業は九月や十月を節

目にするのがむしろ一般的であり、日本の四月入学三月卒業は例外的です。大学はその時期はともかく、まず卒業することが重要であることを改めてお伝えしておきます。

それにしても、皆さんがここに至るまでの道のりは決して平たんではなかったことと推察します。特にこの半年は世界中がコロナ禍に置かれる中、皆さんも大変不安であったかと思います。私たちも遠隔授業を取り入れるなど皆さんの学修が滞ることのないよう最大限の努力をしてきました。皆さんには本来の対面による授業を受けてもらえなかったことを大変心苦しく思っています。いずれにせよ皆さんの貴重な努力の結果得られた学位であることを改めて噛みしめて頂きたいと思っています。またここに至るまで皆さんを支えて下さったご両親を始め、ご関係の皆さんへの感謝の気持ちも忘れずに頂きたいと思います。

さて、私から卒業生の皆さんにお伝えしたいことはた

だ一つです。

それは小学校以来継続されてきた学校での「学び」は今日で節目となりますが、人生の本当の「学び」はこれから始まる、ということ です。大学院でさらに研究を続ける人は別として、就職するなど社会人となる人達にとっては、教室で学ぶということはもうないかもしれません。先生から学ぶ、教科書から学ぶ、そして教室で学ぶということは終わりがありませんが、人生で必要な本当のことの「学び」はまさに卒業してから始まるのです。

仕事に関することはもちろん、大学で学びきれなかったことはこれから自分の意志で学んでいかなければなりません。もう先生も、友達もいません。テキストも決まっています。

そんな中で、自分から進んで、自分に必要なことを学びとっていかなければなりません。これが社会に出てからの「学び」なのです。そして皆さんが成長するためには、この自ら主体的に「学ぶ」ということが必要なので

す。もちろんまた改めて学校に入って学ぶということもあるかもしれませんが。実際に最近では年齢に関わりなく大学等に入学される方も珍しくありません。日本では人生百年時代などと言われ、生涯学習の機会を持つことは、もちろん素晴らしいことだと思います。

このような事を踏まえると、今日の卒業は、一つの区切りであると同時に通過点に過ぎないともいえます。

これからも皆さんが学び続けていく事がもつとも大切であり、そのための一つの節目が本学の卒業であって決して学修の最終目的ではない、ということをお伝えしておきたいと思えます。

それでは、今日を起点に、また新たな学びへと出発してください。明日からの皆さんの一層の活躍と成長を期待して、卒業式の式辞と致します。

本日はご卒業、本当におめでとうございます。

令和二年九月十日

羽衣国際大学学長 吉村宗隆(よしむら もとたか)